

お互いの方でまちづくり

②

日本ふるさと塾主宰・萩原茂裕

ひところ「一村一品運動」が盛んで、全国各地で物をつくることによって地域を活性化しようという試みがなされました。この場合、物をつくることは、あくまで「手段」であり、本来の「目的」は自分たちの住むまちをよくすることにあります。

田町は、自治体がワインづくりをしたことであまりにも有名です。一村一品運動の元祖といえます。

しかし、三十年前の池田町は、何年もの間凶作にあえぎ、食ふることさえ汲々（きゅうきゅう）としていました。会社でいうと、倒産寸前とも言いました。

昭和三十三年、この町に37歳の町長が誕生しました。この

ところが、物をつくることでお金がたくさん入ってくる、と、いつの間にか物づくりが目的になってしまふ。肝心の、まちをよくしようという目的がないがしろにされてしまふんです。目的と手段とを取り違えたために、せっかくのまちづくりへの情熱がとんでもない方向に行ってしまった。結果的に失敗に終わったケースが、実は多いのです。

町民の食生活を豊かにしよう

北海道の十勝平野にある池

田町は、自治体がワインづくりをしたことであまりにも有名です。一村一品運動の元祖といえます。

目的と手段を混同しないように。

地域の活性化

の若き町長が、まず脳裏に浮かべたのは、「何としても町民の食生活を豊かにしよう」ということでした。

目的をしつかり持った自らの目で、町長は、池田町にあるものをつぶさに眺めました。そして、山ぶどうからワインをつくることを思いついたのです。もちろん当時、自治体がワインづくりをするなどなどない

ことで、非難の声もあがりました。しかし、それにもめげずワインをつくりました。最初はさっぱり売れませんが、

やがて評判が高まり、徐々に買ってくれるようになったのです。池田町のワインづくりは手段であり、あくまで目的は「食生活豊かなまちづくり」にあることを、しっかりとつかんでいました。さらに、ワインという手段と、ほかのいくつかの手段とを掛け合わせたのです。

目的は、まちをよくなること

もともと、この町は酪農の町で、牛がたくさんいます。そこでアイデア町長は、ステ

ーキにヒラメキを感じ、なんと町営のレストランをつくったの

です。そして今では池田町は、東京に三軒のレストランを経営するまでになりました。つまり、池田町は、ワイン×ステーキ×レストランと、手段を掛け算して住民の暮らしを向上させ、当初の目的を達成したのです。

人生をだめにした人がいます。目的と手段をはき違えたことが原因である場合が多いようです。まちづくりも同じなのです。あくまでも自分たちのまちをよくすることが目的であり、そのために手段があるということなのです。そこをよくわきまえてかかることが大事です。

この記事はシリーズで掲載しています。

